



地域のお宝をどうすればよいか : 地元に残る古文書を題材として

河野, 克人

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 18:12-13

(Issue Date)

2020-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012137>



地域のお宝をどうすればよいか

— 地元に残る古文書を題材として —

丹波篠山市立中央公民館 河野 克人

1. 丹波篠山市の場合

- ・「古文書入門講座」の開催の意味
地域に伝わる古文書を通して、市民にその大切さや価値を知り、地元に対する興味と愛着を持ってもらうための初心者を対象とした講座
- ・いつから始まったか
20年以上前の旧篠山町時代に、地元の郷土史家を講師に、公民館事業として開講し、現在に至る

2. 「古文書入門講座」の概要

- ・年8回の講座
6月から12月の毎月第1月曜日と翌年1月の第3月曜日の午後1時30分から午後3時30分に開催
- ・受講生
市内在住、在勤の方（50人限定）
- ・講座資料
 - ①丹波篠山市所蔵の資料
市立歴史美術館が保管する篠山藩の武家および庄屋文書
 - ②寺院所蔵の資料
和田寺文書（兵庫県指定文化財）
 - ③その他資料
篠山藩関連資料など
- ・講師（外部より招聘）
 - 片山 正彦（市立枚方宿鍵屋資料館学芸員）
 - 松本 充弘（神戸大学大学院人文学研究科学術研究員）
 - 鬼頭 尚義（京都工芸繊維大学非常勤講師）

3. 講座の特徴

- ・受講生は通算6年の受講で終了
あくまでも入門講座のため
- ・受講生による運営
毎回の講座の受付を受講生が交代で実施

4. 講座の課題

- ・受講終了後の受け入れ先がない
次のステップに進みたい受講生の声もある
- ・市史編纂に係わる問題
講座受講生に係わる場はあるのか

5. お宝（古文書）をどう守るか

- ・古文書入門講座受講生に活躍の場を
どんなに貴重な史料であっても、関心がなければただのものにすぎない。地域に眠る古文書を守るためには、まず、市民に、地域の「お宝」である古文書の価値に気づいてもらうことが最重要課題。なぜなら、市民が自分たちの生まれ育った地域に愛着や誇り持つことが、これらの文化財を次世代へ伝えてゆく原動力となるから。（「丹波焼における地域資源の保存と活用―焼き物の郷におけるフィールドミュージアムの形成に向けて―」より引用）